

竹筒バチの巣

巣と言っても様々な用途があります。竹筒バチの場合巣を作るのは自分が休むためではなく、卵を産み幼虫やサナギを守るために利用しています。



オオフトアオビドロバチ



バラハキリバチ

1本の竹に卵を一つ産むわけではなくほとんどの場合、筒の中にいくつかの部屋を作り、一部屋に一個ずつ卵を産み付けます。部屋にエサを詰め卵を産み終わると入り口に蓋をします。

巣の材料は種によって異なる

ドロ・葉っぱ・樹脂・木くず・枯れ草・コケ、鳥の糞など



ヒメベッコウ

人が置いた竹筒以外にも、塩ビパイプやホースなど丁度いいサイズの穴があれば巣として利用します。自然界ではカミキリムシなど他の虫が使った穴を利用することもあります。

好きな穴のサイズ：種によって異なるが、
およそ5～15ミリ

作成：環境教育・インタープリテーション研究室 藤川あも

竹筒バチ

fact sheet

ハチの中には自ら立派な巣を作ろうとはせず、有り物使いで巣を作りエネルギーコストをかけない種がいます。それが竹筒を利用するドロバチやハキリバチの仲間です。これらの竹筒を利用するハチを『**竹筒バチ**』と呼んでいます。



竹筒バチと呼ばれるハチの中には、蛾の幼虫やクモを狩るカリバチや、花の蜜と花粉を集めるハナバチなどがいます。

スズメバチやアシナガバチを除けばほとんどのハチはつかんだりしない限り刺すことはありません！



竹筒バチはミツバチやスズメバチのような群れを作ることはなく**単独性**です。また社会性もないため、巣の近くにいっても襲われることはほとんどなく、観察に適した昆虫であると言えます。



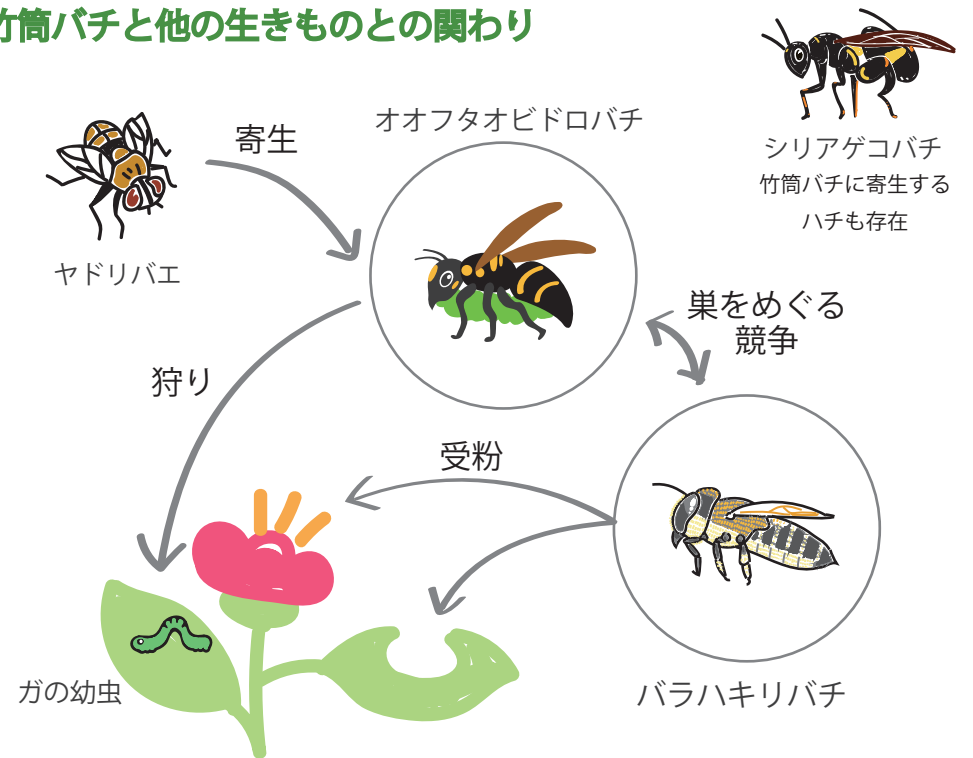
エサを新鮮に保つ工夫 (イモムシをエサとするハチの場合)

親：イモムシに毒針を突き刺すが殺すことはせず、鮮度を保つため麻酔をかけ仮死状態で竹筒に詰めます。

子：イモムシを食べて成長するが、殺さないように体液や筋肉など命に関係のないところから食べます。



竹筒バチと他の生きものとの関わり

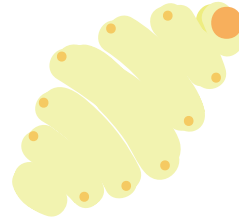


幼虫のヒミツ

カリバチの幼虫は親がエサを用意してくれるので自分で探す必要がありません。

→歩き回る足・エサを見つける目が退化

エサ：ガの幼虫・バッタの仲間・花粉・クモなど
(エサはハチの種類によって異なる)



活動時期

種類によって異なる。多くのハチ類と同じように春～秋にかけて活動する。



オオフトオビドロバチの場合 (年に2回発生)

幼虫は2週間ほどで成長し、竹筒の中でマユをつくりサナギになります。

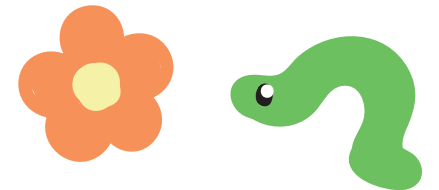
初夏に育った幼虫は、サナギから羽化し成虫になりますが、夏に育った幼虫は前蛹で越冬します。

ハチの恩恵

恐れられることの多いハチですが、私たちの暮らしには無くてはならない存在です。

竹筒バチであるオオフトオビドロバチは、蛾の幼虫をエサとして狩るため、生物の量や自然界のバランスを保つためには不可欠な存在です。

ハナバチ類は花粉を集めて花を飛び回るため、受粉役となってくれます。



大切に存在

